

海況速報

平成 25 年度 第 5 号 (通算 No.155)
平成 25 年 12 月 24 日
北海道立総合研究機構 水産研究本部



内容についてのお問い合わせは
中央水産試験場 海洋環境グループ
Tel 0135-23-4020
ckaiyou@fishexp.pref.hokkaido.jp

11 月中旬～12 月中旬の海況

☆日本海海域

積丹半島のはるか北西沖、および同半島の沿岸寄りの海域に非常に勢力の強い暖水渦（指標：200m 層水温 6℃以上）がみられます。また、檜山沖、および道北海域の沖合から石狩湾方面にかけては沖合冷水が強く張り出しています（指標：200m 層水温 3℃以下）。このため、対馬暖流は沿岸寄りと暖水渦の西側へ大きく迂回する 2 つのルートに分かれて北上しています。特に、沖合を北上する対馬暖流は、沖合冷水の張り出しが強いため、北緯 44 度付近で東進し、雄冬岬沖から沿岸寄りを北上している模様です。

対馬暖流の流量は、ほぼ例年並です。

水温は、道北の沖合冷水が張り出す海域では例年よりも 1～2℃低くなっていますが、例年よりも高い海域が広くみられます（水温偏差表参照）。特に、積丹半島沖の対馬暖流が流れる海域では、水温は例年よりも 2～3℃高くなっています（水温偏差表参照）

余市における旬平均水温は、11 月上旬から例年よりも高い状態にあり、12 月上旬では「非常に高い」でしたが、12 月中旬では「やや高い」まで低下しています。

☆道東太平洋海域

道東沿岸を道東沿岸流（*1）が流れています（指標：50m 層水温 8℃以上）。その沖合では、北緯 42 度、東経 145 度と北緯 41 度 30 分、東経 146 度の海域を中心に、黒潮系北上暖水がみられます（指標：100m 層水温 9℃以上）。

水温は、黒潮系北上暖水がみられる海域で、例年よりも 2～6℃高くなっています（水温偏差表参照）。

☆道南太平洋海域

津軽暖流は、前回に引き続き、渦モード（*2）から沿岸モード（*2）へ移行中です（指標：100m 層水温 8℃以上）。

水温は全体的に例年並ですが、浦河沖の D42 地点の深度 200m では、例年よりも約 5℃低くなっています（水温偏差表参照）。津軽暖流がこの深度まで達していないことが要因として考えられます。

☆オホーツク海海域

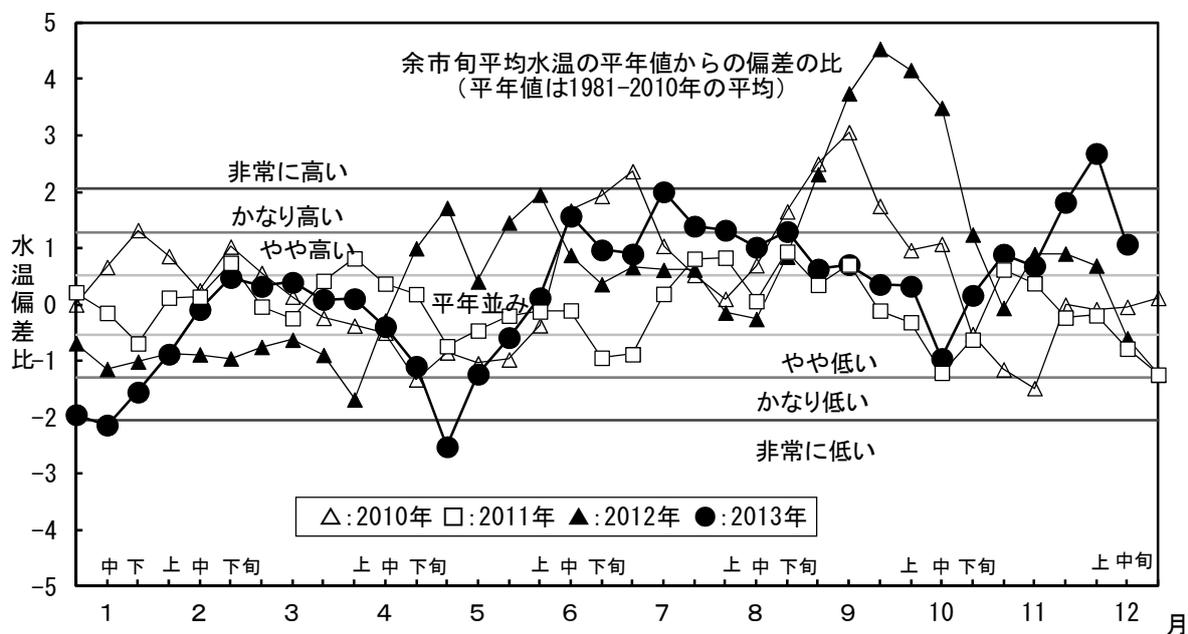
宗谷暖流（指標：50m 層水温 8℃以上）がオホーツク海沿岸を順調に流れており、浜頓別沖では宗谷暖流の幅が例年よりも広がっています。また、オホーツク海の沖合には東カラフト海流がみられ（指標：表面水温 6℃以下）、紋別沖で接岸傾向にあります。

水温は宗谷暖流の流れる海域で例年よりも高く、特に、宗谷暖流が例年よりも沖側へ広がっている浜頓別沖では例年よりも 4～6℃高くなっています（水温偏差表参照）。

資料	観測期間	観測海域
稚内水試（北洋丸）	2013/11/28-11/29, 12/9	（オホーツク海海域）
稚内水試（北洋丸）	2013/12/3-12/6	（道西道北日本海海域）
釧路水試（北辰丸）	2013/11/28-12/2	（道東道南太平洋海域）
栽培水試（金星丸）	2013/11/20	（道南太平洋海域）
函館水試（金星丸）	2013/12/9-12/18	（道南日本海海域）

* 1：夏～秋季に道東沿岸を流れるオホーツク海起源の沿岸流を道東沿岸流と呼んでいます。

*2：津軽暖流が津軽海峡から襟裳岬まで大きく張り出してから南下している状態を「渦モード」と呼びます。これに対して、津軽暖流が青森県尻屋崎からすぐ岸沿いに三陸方面へ南下している状態を、津軽暖流の「沿岸モード」と呼んでいます。



「海況速報」は中央水産試験場ホームページに掲載しております。

また、同サイトにて余市前浜水温がご覧になれます。

<http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/central/kaiyou/index.htm>

余市前浜水温の携帯サイトはこちらから

<http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/central/kaiyou/keitai/k-index.html>

右に QR コードがあります。



